

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○9月21日～

先週は予想通り、日本も米国も0.25%の利上げを決定しました。

特に大きなサプライズはなく、日本も米国もインフレ抑制のため今後も利上げを行う方針です。

米国の利下げの可能性がなくなったため世界は再び利上げモードに入りました。

米国はトランプ大統領の思惑と反対に全会一致での利上げと年内あと1回の利上げ予想となりました。

米国も欧州もそれ以外の多くの国も利上げを行うとなると、日本もそれを上回る勢いで利上げしないと円安を止めることができません。

今後は3か月に1度のペースで利上げし、来年には日本の政策金利は2%になるという予想が増えました。

海外では2%の金利はどちらかというと低金利ですが、日本はずっとゼロ金利を続けていたため2%でも高い金利のように感じます。

日米の金融政策を決める会合が終わったことでドル/円は緩やかな円安の動きとなっていました。日銀が大型連休前に円安が進行するのをけん制するため週末にレートチェックを行ったことで、ドル/円は158円から157円割れまで急落しました。

今年はゴールデンウィークにも連休中に円安が進行するのを警戒して介入がありました。

日銀がシルバーウィーク中でも介入する可能性を示唆したことで、投機的な円安の動きはおさえられそうです。

今週は22日に日米首脳会談が行われます。

トランプ大統領と高市首相がどんな話をするのか気になります。

24日に予定されている米中首脳会談の前に日米での話し合いが行われるということです。

米国の中間選挙まで残り1か月半程度となってきたので、政治関連の動きからも目が離せません。

中東情勢は進展がなく、原油価格も高止まりしそうです。

フーシー派(イエメン)がサウジアラビアの首都を攻撃し、サウジアラムコの燃料タンクで火災が発生したようです。

年末にかけて、原油高と長期金利上昇から株価が下げにくくなるリスクもあります。

今のところAI・半導体関連の株も堅調ですがAIのリスクは今年になってから急激に高まっています。莫大な投資に見合うリターンが見込めないということだけでなく、AIが暴走して何をするかわからないというリスクも指摘されています。

AIの開発や投資にストップがかかるような動きが強まればマーケットにも影響が出るかもしれません。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル/円>

先週は週明けから順調に上昇し、158円をつけた後、156円台後半でマーケットは終わっています。

久しぶりに週足でも大きな陽線となりました。

テクニカルで見ると158円台にレジスタンスがあり、ここを超えると9月の初めにつけた高値の160円あたりが視野に入ってきます。

7月末の介入で大きく崩れてしまい、高値・安値の切り下がりの形にチャートがなっているため160円を早期に回復できなければ下落リスクがあります。

下値は156.5円あたりのサポートを割り込むと155円あたりまで下がる可能性があります。

155円台を維持できれば問題ありませんが155円を割り込んでくると円高リスクが高まるので注意したいです。

<気になるクロス円>

クロス円も先週は上昇し、週足で陽線となっているペアがほとんどです。

今週もこのまま上昇が続くかどうか今後の動きを考える上で重要になってきます。

9月初めの高値から見ると戻りが弱いペアも多く、上昇の勢いが弱まり、今月の月足が陰線となってくると年末にかけて下落していくリスクが高まります。

豪ドルは8月初めの安値109円を下回らずに上昇に転じたので、今後も109円あたりのサポートを維持できるかどうかポイントになりそうです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本はシルバーウィークなので特に指標発表はありません。

米国では9月リッチモンド連銀製造業指数、9月製造業・サービス部門・総合PMI(速報値)、4-6月期四半期経常収支、前週分新規失業保険申請件数、8月新築住宅販売件数、8月耐久財受注、9月ミシガン大学消費者信頼感指数などの発表があります。

欧州ではドイツとユーロ圏で9月製造業・サービス業PMI(速報値)、ドイツで9月IFO企業景況感指数などがあります。

ほかには、南アフリカ、スイス、メキシコで政策金利、カナダで小売売上高の発表などがあります。